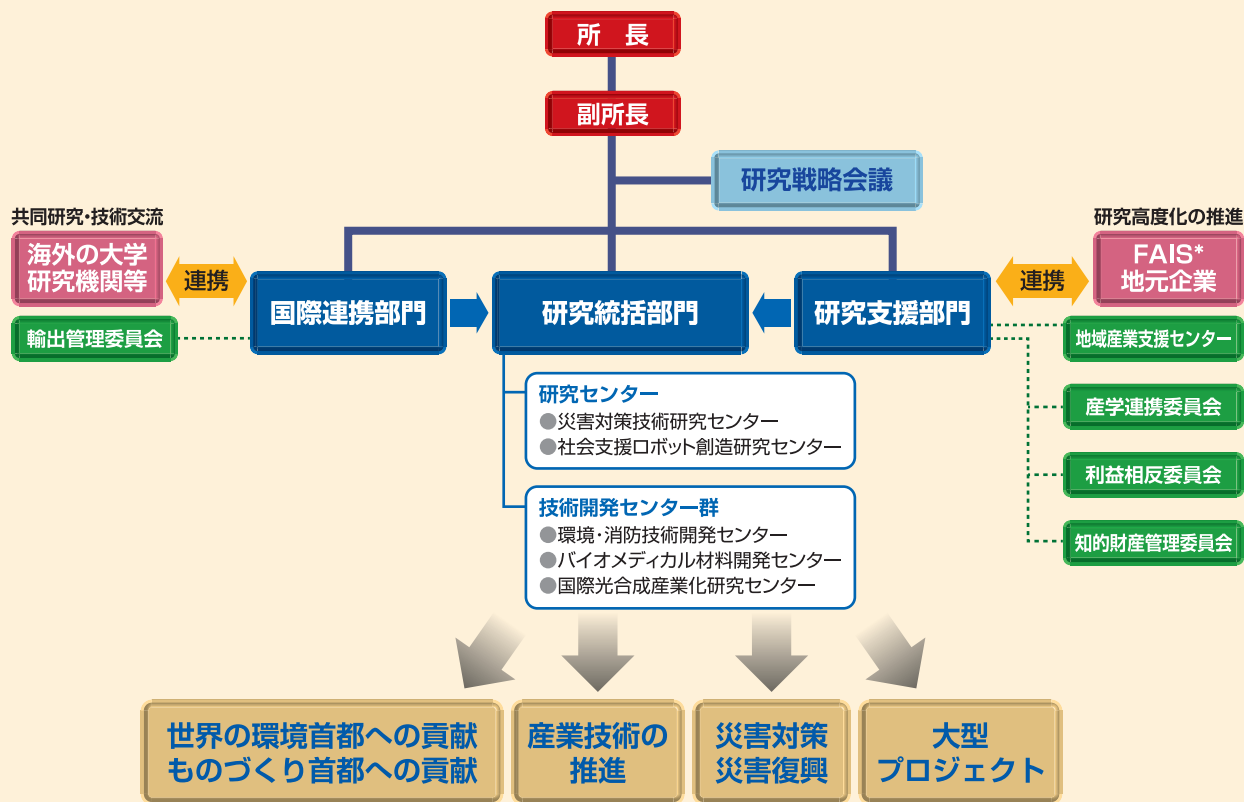


環境技術研究所の組織改正のお知らせ

平成27年10月1日付をもって、環境技術研究所の組織が改正されました。国や市の政策や社会のニーズに対応し、産学官が連携した研究を推進するにあたり、①知的財産の活用や研究広報といった研究支援、②国際連携活動の支援、③災害対策技術研究センター、技術開発センター群などの研究プロジェクトを一元的に統括し、研究の高度化を推進、及び④研究戦略会議の研究方針に沿って戦略的に研究開発を支援する体制としました。

従来の研究分野別組織体制が、新たな組織では機能別組織体制となり、「研究統括部門」「研究支援部門」「国際連携部門」の3つの部門が置かれています。「研究統括部門」では、戦略的に重点研究を推進する「研究センター」と時限的に設置される技術開発を目的とした「技術開発センター群」によって、一層研究を推し進めていきます。

環境技術研究所の組織図（平成27年10月1日改正）



*FAIS: (公財)北九州産業学術推進機構

社会支援ロボット創造研究センターを新たに開設！

この組織改正と同時に、新しい研究センター「社会支援ロボット創造研究センター」が設置されました。この研究センターにより、北九州市が推進する介護ロボット等ロボット技術を活用した人口減少、少子高齢化への対応に貢献する研究を行っていきます。

センターでは、情報系（センサ、認識、電子制御）、機械系（駆動、機械制御）、建築系（高齢者支援住宅システム）等の研究者が結集し、これまでのロボットや自動車の知能化に加えて、ロボット活用による安全・安心で豊かな社会を実現するために介護・福祉や生活支援用ロボットの研究開発を行います。開設においては、本学の研究者11名が参画し、今後さらに学内外へと展開していきます。

「国際光合成産業化研究センター」を開設

北九州市立大学環境技術研究所に本年4月から新しい技術開発センターが開設しました。技術開発センターは技術開発能力を高め、その成果を事業化することを目的に時限的に設置される組織で、新しいセンターを加えて3つのセンターが地域に貢献する環境技術の開発を行っています。

「国際光合成産業化研究センター」は次世代のエネルギー源として、「光合成」に着目し、東京大学をはじめ、イタリア・フィレンツェ大学といった国内外の研究機関、企業と共同で研究を行います。植物や藻類が行う光合成の利用、IC制御高輝度LED技術やロボティクス技術を活用した新しい農業、光合成を模倣した人工の光合成システムによる画期的なCO₂回収技術の開発などを目指します。

国際光合成産業化研究センター開設記念ワークショップ ～人口光合成技術の実現と国際的事業展開に向けて～

日時 平成27年7月13日(月) 14:00～17:30 **場所** 北九州学研都市 学術情報センター

ワークショップでは、まずセンター長である国際環境工学部環境生命工学科の河野教授が、センターが目指す方向性について講演しました。

「これまでの研究成果とそれらを結びつけた光合成の様々な要素技術開発によって、①CO₂回収、②エネルギー生産、③食糧生産、④環境制御・保全という世界が直面する問題を解決したい」と河野教授。チャレンジングな目標ですが、関係機関との連携によって、「緑」の産業の実現をめざします。

続いて、東京大学藤井克司特任教授や理化学研究所中村振一郎研究員などにご講演いただき、70名の方が熱心に聴講しました。最後の討論でも活発な議論が行われました。

北九州市が掲げる「低炭素社会」を実現するための技術開発の中核を担うことを目指します。来年北九州で開催されるサミット・エネルギー相合会に情報発信ができるよう、研究を推進していきます。



第14回産学連携フェア

企画展示

社会に喜ばれる研究を目指して～研究事例紹介～

日時 平成26年10月30日(木)～31日(金) **場所** 北九州学術研究都市 体育館

特別企画

研究所で取り組む研究のうち、多糖を用いた核酸医薬のDDSの開発の研究成果を模型やパネル展示(櫻井和朗研究室)で紹介し、さらに「竹粉を用いたファイバー食品・竹粉パン」(森田洋研究室)の試食、血圧測定を可視化するデモンストレーション(中武繁寿研究室)、その他液探知・液種判別センサー(李丞祐研究室)の展示を行いました。

セミナー

「ライフィノベーション:多糖グルカンの今と未来～漢方薬から次世代の医薬品技術DDSまで～」

●βグルカンと核酸がつくる不思議な3重らせんの発見
櫻井 和朗(国際環境工学部 環境生命工学科 教授)

「農作物の潜在機能活用による食品開発」

森田 洋(国際環境工学部 環境生命工学科 教授)

